

# 諏訪小だより

令和3年9月22日  
臨時号  
多摩市立諏訪小学校  
校長 齋藤 幸之介

## 御礼ならびに御報告

新型コロナウイルス感染症の爆発的とも言える広がりにより、夏休みが延長され、また先週までは午前授業となりました。未曾有の事態に対応する難しさを一層強く感じています。子供たち、そして保護者や御家族の皆様のお不安を全て取り払うことなど到底できることではない、とも思っています。夏休みには水泳指導が中止となりました。また、本来ならば10月4日より2泊3日で実施する予定でした第6学年の八ヶ岳移動教室は、現段階では延期とするのが望ましい、と判断しました。子供たちの期待を削いでしまったと、申し訳ない気持ちで一杯です。

### 少しずつ戻ってきた「特色ある教育活動」

しかし、一方で、昨年度に比して活動できるようになったことは増えてきました。低学年の交通安全教室は4月に実施することができました。近隣を舞台とした町探検は複数の学年で行うことができました。子供たちは、平素暮らしている地域の新たな発見ができた、と発表しました。

3年生は永山駅の施設を中心に「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」について追究し、地域社会にどのように関わっていったらよいか、と一人一人が考えるきっかけを得ました。

4年生は多摩リサイクルセンターに出かけ、多摩市を中心としたごみ処理の特色を明らかにするとともに、学校をはじめとする場で少しでもごみを減らすための自分たちの取組を考えました。

5・6年生は、冒険の丘にある畑や田を有効に活用して栽培活動を行いました。5年生は、社会科で学習した「米作り」を基にしつつ、さらに稲を育てるためのポイントを調べ、実際に田植えやその後の栽培活動を継続して行いました。6年生は数多くの野菜を育てました。生長度合いを優しく見守りながら大きく育て、これを一つの成果として7月に「すわっこ市場」を実施できたことは意義深いことでした。当日は野菜の販売と、SDGsとの関連にも触れながらの野菜作り・農業に関する発表は、手前味噌にもなりますが、総合的な学習の時間の理想型でもある、と捉えています。

本校に、少しずつではありますが、「日常」が戻ってきました。

### 平素の学習や活動から

年度当初、学校だよりや保護者会で、私は本校の環境の素晴らしさに触れてきました。広い校庭では、

## 校長 齋藤幸之介

子供たちが、休み時間には大いに遊び、また体育科の学習では、走り、飛び、追いかけたり追いかけられたりし、また鉄棒や遊具で自分なりの動きを楽しみました。

また、縦割り班活動を通して異学年交流も少しずつですが行えるようになってきました。最高学年としての自覚をもって話し合いをしながら活動の内容を決め、また実際の活動においては下学年の子供たちに優しく接し、相互に関わるよさをみんなで味わわせるように努力しています。下学年の子供たちは6年生にあこがれをもちながら、「いつか自分も」と思っていることでしょうか。年度途中ではありますが、すこしでも時間と場にゆとりをもたせるために、活動時間を中休みに設定することにしました。改善を図りながら取り組んでいます。

教科等の学習も、平素より淡々と進めるべく努力をしております。淡々と申し上げても、それは単に「あっさり」というわけではなく、コロナ禍でも推し進められる、一人一人が意欲をもって、また友達と関わりながら「？」を追い求めていく、そんな姿がそこかしこに見られるようになってきました。例えば、本校の教員が追究している国語科では、子供たちが学習の終末に様々な作品を作ったり音読などの発表をしたりすることを見据えながら、楽しく作品を読み進めるようになってきました。

改めて、平素を大切にしたいと思っています。

### 後期に向けて

子供たちの安全と安心を保障するために、保護者の皆様には引き続き健康観察カードへの取組をお願いすることとなります。本校では朝の健康観察の充実を図ることをはじめとして諸対策を適切に行ってまいります。給食も「黙食」を続けるなど、子供たちには不便を感じさせることにもなります。

本日、子供たちは通知表を持ち帰ります。前期の成果としてお読みいただくとともに、わずか4日間の休みではありますがこの間に御子様と前期の振り返りと後期の目標についてお話しいただければ幸いです。

この半年間、御理解と御協力を賜りましたことに深く感謝を申し上げますとともに、9月27日より始まります後期もどうぞよろしくお願ひたく存じます。

## 御礼ならびにお詫び（夏休みの自由研究について）

夏休み明けに保護者会を実施する予定でしたが、残念ながら延期となりました。これに伴い、本来ならば子供たちが夏休みに取り組んできた自由研究を一同に集めた「夏チャレ展覧会」を御覧いただくことも叶いませんでした。すみませんでした。

自由研究については、夏休み前に各学級で行った計画の立案を御家庭で受け止めていただき、微に入り細に入りお力添えを賜りました。御苦労をおかけいたしました。御陰様で素晴らしい成果を参観することができました。深く感謝を申し上げます。

「夏チャレ展覧会」については、子供たちは、学級毎に参観をすることになりました。自分の作品を誇らしく見せる子もおりました。また、「さすが上級生」という多くの素晴らしい感触に触れながら「来年はこれに取り組んでみたい」という子もいました。上級生の中には、下級生のよさを認め、感激をしていた、との報告もありました。本校の子供たちが互いを認め合える場になった、と捉えています。

### 改めて確認できた「自由研究のよさ」

自由研究は文字通り「自分の思った通りに取り組むこと」ができる活動です。なかなか言いづらい部分もありますが、学校の教育活動には必ず「ねらい」がありますから、これを達成するためには解決すべき「課題」が設定されます。それが無いわけですから、子供たちの思いや願いが大いに叶えられる活動であるわけです。

このことを踏まえながら、子供たちの取組のよかった点をいくつか御紹介したいと思います。

#### 1 「願い」の原点、それは「生活」「経験」「学習」

子供たちの作品は、思いつきではなく、それぞれの生活などにおける経験や今までの学習内容に基づいていました。

今夏にテレビにて大いに流れたオリンピック・パラリンピックは生活の中から見出した場面とも言えましょう。料理に関する事は、日頃取り組んできたことが基になっていました。ウイルスに関する研究はまさしく今日的課題を捉えたものでした。かつて旅行をしたことから問いをもった子もいました。

一方、今まで学校で学習した教科等の内容を踏まえたものも少なくありませんでした。環境や自然災害に関する事、生き物を育てること、図画工作科での活動が基になっているもの、歴史について、などが一例です。マスコットなどの製作は家庭科との関連で捉えることもできます。日頃の学習経験が大いに生かされていた、と見取ることもできました。

子供たちの周囲には、自由研究に値する素材が多く存在することに気付かされました。そして、それを見出ししていくことが子供たちの意欲的な追求に繋がっていくことも示されたと捉えています。

#### 2 「粘り強く」取り組むこと

計画を立てても、その通りには進まずに途中であきらめることもあります。しかし、今回の取組では子供たちはそれぞれが自分なりに最後まで取り組んだ、と高く評価しています。細かい作業を行ったことが伝わってくる作品がありました。昆虫や植物と夏休み中はずっと関わってきた姿も見取れました。地道に収集したものをまとめたものもありました。改めて、一朝一夕ではなし得ないもの、つまり時間をかけて結果を出した素晴らしいさからは、子供たちのあきらめない気持ちが伝わってきました。もちろん、ここには保護者並びに御家族の方々の励ましがあつたことは容易に想像できます。ありがとうございました。

#### 3 一人一人の「表現方法」

今回の活動で、子供たちは様々な表現をしていました。もちろん、作品は表現です。そこには、一人一人の方法のよさが見取れました。例えば、白地図や立体地図を上手に活用する子、絵を採り入れながら日記風にかき続けた子、写真を入れながらそこに適切なコメントを加える子です。工作に取り組ながらそのプロセスを説明した子もいました。もちろん、作品のみでそれこそ強く主張する子も多くいました。子供たち一人一人が、作品や自分自身に適した方法で表現できるのもこの取組のよさであることが改めて認識できました。

繰り返しにもなりますが、子供たちがこのように素晴らしい力を発揮できましたのも、保護者及び御家族の多方面に亘るお力添えのおかげ、と深く感謝をする次第です。ありがとうございました。来年度は感染症の影響を受けずに皆様にゆっくりと御参観いただけることを願うばかりです。中には来年度の取組内容を示唆するようなまとめに出会うこともできました。大いに期待をしたいと思います。